

PLEIADES



札幌天文同好会 Sapporo Astronomy Club

第3回 ムーンライトウォッチング開催報告

中山 正

日 時：7月9日（日） 午後7時30分～午後9時30分

場 所：大通り公園 西5丁目北東角

天 候：晴れ

観望対象：月（月齢13.8）・木星・ベガ

使用機材：20cm反射・15cm屈折・8cm屈折
10cm双眼鏡

参加人数：約100名

参加会員：西野・石塚・越後・中山

雲が少なく星見日よりでした。木星・月の南中高度が低いので障害物の少ない5丁目に会場を移しました。日没が19時16分のため薄明の残る空でしたが、南中した木星を中心に観望会を始めました。15cm屈折はズームアイピース（8mm～24mm）で約40倍～120倍に倍率を変えながら、木星のレプリカ（タカラ

製）と見比べて、縞模様の確認に挑戦していただきました。立体レプリカでイメージを作ってから望遠鏡を覗いたことにより、縞模様が認識しやすくなったみたいで、ほとんどの参加者が直ぐに『あ！見える』と声を上げていました。

また今回も、参加者には写真撮影にも挑戦していただきました。



直径3cm程の木星レプリカ

8 月例会 出席者の一言

生田 盛：体調不良により9月・10月の例会は休ませていただきます。

（差し迫ったご病気ではありませんが、開腹手術をされます。成功率は100%とのことです。編集子）

中山 正：札幌天文同好会創立50周年祝賀会出席ありがとうございました。11名の参加があり、会員の6割に相当し近年にない盛況でした。これから100周年に向けて新たなスタートを切ることが出来たと思います。ムーンライトウォッチングもパワーアップして開催

していきたいと思います。会員皆様の、一層のご協力をお願いします。

越後恵子：今春、家の前にある2灯の街路灯がナトリウム灯に変わりました。歩くときは明るくなりよいのですが、星空がますます見えにくくなりました。年に何回かは夜更けに庭から「天の川」が見られたのに、ナトリウム灯になってから、どうしても邪魔になり見えません。残念です。

柴田健一：編集後記参照

札幌天文同好会創立50周年記念祝賀会 開催

中山 正

札幌プリンスホテル2F芙蓉城にて、7月1日18時30分より始まりました。出席会員は、柴田会長・後藤元会長・大場さん・生田さん・西野さん・北村さん・吉田さん・由水さん・越後さん・池田さん・筆者の11名でした。

最初に開会式の挨拶を後藤榮雄元会長よりいただきました。『札幌時計台で創立総会が行われた様子』など、昔の様子が思いおこされるお話でした。続いて祝杯の発声を柴田健一会長にいただきました。

『100周年を目指して』の乾杯でした。すぐ祝宴に入り、後藤さん・大場さんの持ち寄った創立当初の書物・写真・会員名簿などが回覧され回想タイムに突入しました。18時50分頃より大場さんから順次50周年に寄せてのスピーチに入りますが、創立当初の会員も2名が出席され、話しが途切れることなく続き、30分延長して21時に閉会となりました。その後、28階の二次会会場に移動しました。

スカイラウンジでは、西の空に架かった月を愛でながら夜景を横目に星談義の一時でしたが、23時過ぎには解散となり、100年目に向けての新たな胎動

が始まりました。



柴田会長が100年へ向けてのあいさつ



28F スカイラウンジでの一コマ

50周年記念祝賀会の様子と50年の歴史は別途、特集いたします。
資料や、これからの活動に対する思いなど、お寄せ下さい。

編集局



初めて買った天体望遠鏡はビクセンの10cm反射経緯台でした。中学1年の頃、時々弁当がないときにもらう百円を貯めて、お年玉と貯金も全部集めて作った資金で買ったものでした。当時、五藤光学、

タカハシと言ったメーカーは知っていたのですが、2万円足らずで買えるはずがありません。したがって、当時、まだ無名？だったビクセンの望遠鏡を買ったわけですが、とにかく口径の大きいものと考え、背伸びして買った望遠鏡でした。

この反射望遠鏡の鏡はあまり精度が良くなく、星を見ると回折像どころか焦点が明確でなく、何度光軸調整を行っても綺麗な点になってくれませんでした。そこで、5年間保証と謳っていたのを思い出し、恐る恐るメーカーへ手紙を書いて状況を説明したところ、セルごと主鏡を送り返して欲しいとの連絡がありました。この時、生まれて初めての郵便小包を送ったのです。待つこと2週間、立派な段ボール箱に入った鏡が到着しました。早速開封してみると、送ったときとは別物の立派なセルとぴかぴかの鏡面が入っていました。多分、上級機種の一部品だろうと思います。

望遠鏡に取り付けて光軸修正を行って、夜、星を見てみると、新しい鏡は同心円の綺麗な回折像を見せてくれました。厳密には過修正で球面収差のような滲みがあったのですが、解像力は10cmとして及第でした。この望遠鏡はその後、赤道儀やシンクロナスマーターを与えられて最も良く働いてくれた機材となりました。本当はこれが私の愛機となるはずなのですが、引っ越しの時に知人の子どもにもらわれていきました。

高校（編集子注：旭川東高校）に進んでからは天文部に入ったこともあって、天文熱はますます高まるばかりでした。そのころ、天文部の機材は五藤光学の7.5cm屈折、西村製作所の15cm反射、それと国

宝と呼ばれていた中村要鏡の7.5cm反射がありました。そんな機材を使いながら「五藤の望遠鏡欲しいな」と漠然と思っていたら、ひょんな事から五藤光学のテレパックと呼ばれていた5cm屈折経緯台をすごく安く譲ってもらう機会がありました。

日頃、10cm反射を使っていたのでアクロマートの5cmなんてと、あまり期待しないで月を見てびっくり。確かに紫色の滲みが盛大に出てはいましたが、クレーターの表情などが気流に影響されずにキッチリと見えました。「え？、結構、解像度高い」と思い、こと座の ϵ を見ると、二組の二重星が綺麗な回折リングを見せながらキッチリ解像しています。当時は5cmの限界近い角距離だったと思います。北極星やリゲルの伴星など、小口径では光度差などで見えづらいとされた二重星をことごとく分離し、角距離が2秒以下の二重星も回折像の中央のディスクがくつつきながらも二重星として存在していることを示してくれました。「5cm、悔りがたし・・・」はこの時の感想です。

その後、社会人になってからは10cm屈折、20cm反射、23.5cm反射と大口径化を進めていったのですが、口径が大きいと良く見えると思いきや、実際には外に出してから気温に順応させる必要があり、外気温になじんだ頃には空が曇っているなど、観測の機会は逆に制限されていったのでした。そして、望遠鏡を出して星を見るのは年に数回、という状況になりました。

そんなある日、近郊のリサイクルショップに立ち寄ったところ、細い小さな望遠鏡が目にとまりました。メーカーは「ROYAL」。例によってオモチャかなと銘板を良く見ると「ASTRO OPT. IND. CO., LTD.」と刻印されています。「これってアストロ光学なんだ・・・」と状態を詳細に調べると、赤道儀に載っているが微動つまみが固く、全体にガタが大きい、レンズの汚れが目立つなどなど難点がありました。値段は「7千円」。「うっそー、これはそんな値段が付く状態じゃないよ」とあきらめかけましたが、その時、昔の五藤のテレパックのことを思い出し、「むー、どうするー、買うか！」ということで晴れて我

が家へやってきたのでした。(ROYALは古い時代のアストロ光学の販売ブランド名らしい?)



ROYAL R51 赤道儀の全景



ROYALのブランドが銘板にある
アストロ光学望遠鏡の接眼部

この望遠鏡、どこにも安っぽいプラスチックは使われていません。部品は三脚を除いて金属製です。小さな部品でも旋盤で切り出して加工してあります。細く華奢に見える鏡筒を持ったところ、意外にしっかりした重みがあり、全体として手間がかかっていて金属製ミニチュアモデルのような雰囲気呈

しています。

光学系は口径50mm、焦点距離750mm、口径比F15の正統なアクロマートレンズです。コーティングはなぜか4面中3面だけ、ドローチューブは二段になっています。ファインダーは4倍10mmですが、対物レンズはアクロマートで十字線もあります。

オーバーホールして綺麗になった状態で星を見ると、期待通りの性能です。外気温に慣らす時間はほとんど要らず、持ち出してセッティングした瞬間から回折リングの取り巻く美しい星像が得られます。月の見え味も十分シャープで、土星の輪や木星の縞模様、火星の極冠も安定して見えます。もちろん、こと座の ϵ は綺麗に分離します。昔、持っていた五藤の5cmより像の角が丸めの印象を受けますが、色にじみはアストロの方が少なく一長一短でしょうか。

ただし、赤道儀の作りが弱々しく、高倍率で惑星を長時間観察するには、ちょっと辛い架台です。また、赤経のウォームギヤの枚数が80枚と変則的で、モータードライブを付けられないのも痛いところ。でも、鏡筒を取り付けた状態で、片手で楽々と運べる軽さはとても快適です。

この望遠鏡を買い、メンテナンスしていく中で、昔のように星を見るという情熱が再燃しました。今また、様々な望遠鏡を集めています。曇った夜に「あれはどう見えるだろうか」とアイピースの視野に広がる星像をイメージしながらアルコールとともにレンズの手入れをするのはとても楽しい時間です。こんな経緯から、このアストロの5cm屈折赤道儀は、まさに愛機と呼べる一台なのです。

編集局、こと柴田は、通算6年有余の旭川天文同好会会員でもあります。

この度、同会の会報「旭天」を6年振りに編集・発行しました。内容は、新科学館「サイパル」(H17年)オープンに期待することや、旭天会員の常磐公園の科学館(昭和38年)や天文台(昭和25年)に対する熱い思い出など、38ページに亘っています。旭天の会員からお誉めを頂きましたが、とりわけ、池田会長からはその功績を讃えられて「会長賞」を贈呈されました。この賞、かつて、和田旭天会員が「天文ガイドHB彗星写真コンテスト」に最優秀で入選したことを讃えて贈られて以来の価値ある賞です。

編集子は、当分忙しい状態ですが、旭川・札幌と言わず、同好会員のために頑張ります。つきましては、本会の会報「PLEIADES」についても、会員諸氏の投稿について、よろしくお願いいたします。



「旭天」編集を労って池田裕、旭川天文同好会長から「会長賞」を頂く、編集子

事務局より（重要）

●10月から例会会場が変更になります

中央区民センター改築工事のため、例会会場が下記のとおりに変更になります。

10月からは、お間違えの無いようにおいで下さい。

札幌市社会福祉総合センター 第1会議室

〒060-0042 札幌市中央区大通西19丁目1-1

（011）614-2948（受付・案内）

地下鉄東西線 西18丁目駅下車（出口1番）

JRバス、中央バス「北1条西20丁目」バス停下車

徒歩3分

●9月例会は2日（土）中央区民センター会議室 Cで18時から行います。22時まで延長して申し込みしてあります。

●会報の印刷局である生田さんの都合により、8月・9月のプレアデスの印刷・発送は事務局で行なうことになりました。問い合わせは中山まで連絡ください。

●第3回ムーンライトウォッチングは、7月9日開催しました。協力ありがとうございました。

8月は12日です。



新しい例会場の札幌市社会福祉総合センター

ニュートン天文ピックアップレポート 8月号 (2006)

p10 NASAニュース

ボイジャー2号が太陽圏（ヘリオスフィア）の果てに接近

29年前に打ち上げられた探査機ボイジャー2号が太陽圏（太陽風がおよぶ範囲）の縁に到着しつつある。2007年までにはターミネーション・ショック（終端衝撃波面）を通過予定。太陽圏には恒星間ガスとぶつかるターミネーション・ショック領域。その外側にヘリオシース領域（太陽風が減速され、同時に磁場が圧縮され強まる領域）があり、さらに外側にヘリオポーズ（太陽風の影響が及ばない領域）がある。

p14～29 ヨーロッパ南天文台 最新ショット

地上最強の巨大望遠鏡VLTが宇宙の謎にせまる

口径8.2mの巨大望遠鏡VLT4基を筆頭に、大小の各種望遠鏡と多彩な観測装置を擁するヨーロッパ南天文台（ESO）の最新成果を厳選して紹介。NGC2467星雲・NGC6397球状星団・タランチュラ星雲（大マゼラン星雲、30Doradus星雲）・NGC1350渦巻き銀河そして、NGC1097棒渦巻き銀河では星形成の領域やブラックホールに飲み込まれる物質の渦巻きの画像は必見です。シュワスマン・ワハマン第3彗星のB核が7個に分裂した画像も紹介されている。



「月」 (月齢3.0)

撮影日時：2006/04/01 19:29:17

撮影場所：札幌市清田区平岡公園東

望遠鏡：Vixen SA70S D=70mm FL=600mm

撮影法：直焦点（編集でトリミング）

カメラ：OLYMPUS E-300

Tv：1/4S

ISO感度：100

記録モード：JPEG SHQ

撮影者：由水 伸



編集局よりお詫び

7月号の表紙写真は、PDF変換時、誤って高圧縮としたため写真が綺麗に印刷できませんでした。ここに低圧縮の写真を再掲載いたします。

編集後記

柴田 健一

「サラリーマンは気楽な稼業と来たもんだ」は植木等が歌った「スーダラ節」だ。確かにそうかもしれないが、それなりの年齢になってくればそうも行かないのは、周囲の天文サラリーマンを見るとわかる。私も、その一人で最近の天文活動と言えば、会報編集くらいしか出来ない状況で、日々追われている。だから、天文屋の命「カメラ」一台、買うにしても事前の調査が不十分だった。D70は買ったが、レンズは付属の安もの。天文用にはピントが出ないので、中古でAF-S 24-85EDがあつたので、EDなら大丈夫と思つて買った。しかし、風景でさえピントが甘い。これはフィルム用のレンズでデジタル向けでは無かつたのだ。29000円も叩いて買ったレンズは、8000円で下取りとなり、34800円のデジタル専用中古レンズを購入した。無駄なことをした後悔している。ズームだから星の写真には向かないが、旭川在任中に、大雪の自然を収めたいと考えている。しかし、時間との競争になつてしまったようだ……。

ところで、7月号でお知らせしたとおり、「私の愛機」の連載を始め、初回は由水さんに書いていただきました。大学の先生とは思えないような、瑞々しさ。望遠鏡に寄せる想いが名文です。まさに現役の天文少年ですね。次回は、ムーンライトウオッチングで星よりも輝いている西野浩天文少年です。ご期待下さい。

発行：2006（平成18）年 8月20日 札幌天文同好会 Sapporo Astronomy Club

事務局：〒007-0845 札幌市東区北45条東9丁目2-33 TEL：011-741-8830

中山 正

編集・ホームページ：柴田健一 / 印刷：中山 正 / 印刷部数：10

HP：<http://www2.snowman.ne.jp/~Shibata/>

郵便振替口座：02780-7-31295 名称：札幌天文同好会